

## 1 事業実施の方針

### 【法人全体】

拠点を置く御前崎市や当法人に対して、求められている取り組みが明確になってきていることもふまえ、昨年度取り組んできた事業や活動を精査し、『NPO法人Earth Communicationだからこそ』というプログラムやパッケージを体制化させることを図り、継続していくことが可能な活動においては継続実施。そうでない事業や活動においては見直しを行い、2027年度以降、法人として取り組むべきか否かの判断を行うための試験的な活動およびリサーチを継続実施する。同時に、各事業内で取り組む活動を再整理し、活動の明確化を図る。また、昨年度に引き続き、既に依頼や相談をいただいている業務もあるため、行政機関や企業、他団体、地域等との連携・協働する取り組みの拡大を目指し、より良い活動や連携協働基盤を構築していけるよう、体制強化を図る。同時に、より広く多くの方に活動の周知を図り、関わってくださる会員を増やしていけるよう各事業に取り組んでいく。

### 【自然楽校事業】

一般向けには『アースコミュニケーション自然楽校』という取り組み名とし、自主事業である『マリンキッズ』、『アースキッズ』、『オープンプログラム』に取り組むことで、多くの方が自然や環境に触れ、自然を楽しみ、自然や環境について学ぶ機会の創出を図り、活動の充実を図る。また2027年度に向け、子どもたちを対象とした里山活動『ネイチャーズ』のプログラム化に向けたリサーチを行う。

○ **マリンキッズ**： 昨年・一昨年度からの状況や御前崎市の立地・状況などを考慮し、宿泊型プログラムに体制を変更。年間全6回を計画し、その都度、募集を行う。活動を通して海を楽しむだけでなく、海への愛着心や海洋環境への意識を育む。また、参加する子どもたちや保護者の皆さんともコミュニケーションを図り、年度内および次年度の活動に活かせるよう、活動への期待など情報収集も行う。

○ **アースキッズ**： 久々生海岸での取り組みを中心とした『海のもり』プログラムと、生きものたちと共生する田んぼを中心とした里山の自然環境を活用した『里のめぐみ』プログラムに取り組むことで、久々生海岸の海岸環境だけでなく、里山の自然や「自然・環境・社会のつながり」などへの意識と理解を図っていく。今年度より子どもだけの参加は不可とし、きっかけづくりの場として確立を目指す。

『海のもり』プログラムでは、昨年度同様、月1回、年間12回の活動を計画。季節の移り変わりによる海の森の変化やそこに集まる生きものたちの違いなどを体験的に学んでいただけるよう実施。また、季節ごとアマモ場の生きもの調査も兼ねた活動に取り組み、アマモ場のモニタリング調査に反映させる。

『里のめぐみ』プログラムでは、御前崎という地域に対してのニーズは低く、集客に苦戦している状況は変わらないが、当法人が目指す『海と里山をつなぐ活動』の体制化を目指す。今年度も『田んぼに集まる生きものと共生したお米作り』をテーマに有機で稲作を行う田んぼ活動を中心に取り組み、福田沢フィールドも活用させていただくことで、里山の自然への意識と理解を図る。田植えや稲刈りに加え、恵みをいただく活動も取入れ、食育体験活動として年間6回の活動を計画。毎年度ニーズが高く、自然の循環や海と里山のつながりを感じられる「竹飯ごう&塩づくり」も実施予定。

※ 昨年度、結びとして取り組んでいた活動を1本化。

○ **オープンプログラム**： 昨年度に引き続き、社会や地域の状況の変化によるニーズの変化がうかがえるため、2026年度もニーズの把握を目指し、実施態勢は継続させていく。

### 【未来にのこす事業】

一般向けには『ハチドリaction.』という取り組み名とし、自然や環境の保全を目的とした『里海プロジェクト』、『里山まもり隊』に取り組む。また、法人内外問わず、自然や環境に携わる人材・指導者の育成を目指す『EC LABO.』に取り組む。

○ **里海プロジェクト**： アースキッズ 海のもりプログラムとも連携し、アマモ場の生きもの調査を実施。海岸保全活動としては、ビーチクリーンや海岸陸地の整備を実施。また、県や国、大学、研究機関の皆さんと連携・協働し、より良い環境が保全・維持されるよう調査・研究にも取り組む。これまで連携させていただいている関係団体の皆さまとの連携強化を図ると同時に、新たなつながりや関係づくりにも取り組んでいく。

○ **里山まもり隊**：アースキッズ 里のめぐみプログラムとも連携し、田んぼに集まる生きもの調査を実施。里山の保全活動として、田んぼに集まる生きものたちの生育場となっている田んぼ脇の池の整備や正福寺(比木地区)の裏山の竹林整備に加え、福田沢の耕作放棄地の整備と活用に取り組む。竹林整備等で間伐した竹などは、アースキッズ 里のめぐみプログラム内の竹飯ごうとして活用。また、端材などは炭や灰にし、田んぼや久々生海岸の海浜樹木のために活用することで、自然の循環や海と里山のつながりを観える化をさせていく。

○ **EC LABO.**：2025年度は、法人内部向け(EC LABO.)と外部向け(インタープリター養成)と対象別に取り組みを分けていたが、2026年度より、『指導者の育成』という目的に合わせ、取り組みを一本化させ活動に取り組んでいく。そのため、内部向けは「指導者研修」、外部向けは「自然共生案内人」として活動を実施。指導者研修においては、御前崎クエスト グローカルプログラムとも連携し、指導者としての学びの場・スキルアップの場を設け、活動を行う。自然共生案内人においては、5月のゴールデンウィークを活用し、NEALリーダー養成講座とキャンピンストラクター養成講座の同時開催を計画。NEALインストラクター養成講座の開催は行わない予定。

### 【むすびつながる事業】

2026年度も引き続き、さまざまな関係機関の皆さんと連携・協働する『協働Program』への依頼は多くいただいている。また、2024年度から取り組みを行ってきた「つどいの広場」は、今年度より『つながる広場』として取り組みを行う。また、昨年度まで自然楽校事業の取り組みとして位置付けていた『Camp Program』は、『キャンプ活動などをきっかけにつなぐの輪を広げる』という目的に立ち返り、本事業の取り組みとして活動を行っていく。

○ **協働Program**：2017年度より企画・運営に携わってきた御前崎市教育委員会が主催する『御前崎クエスト』は、今年度で10年目を迎える。市財政の低迷に伴う活動全体の見直しが行われ、活動予算が削減され、キッズ・ジュニア・グローカルと全3プログラムの構成となったが、青少年事業として本来の目的に立ち返り、活動を企画し開催を予定。今年度も受託させていただける予定。また、10周年に合わせて、8月に10周年記念イベントも開催を予定している。また、市社会教育課が主催する『海洋体験活動』、市GX推進課が主催する『環境ミライ教室(前 環境出前講座)』についても継続することが決まり、講師として依頼をいただいている。海洋体験活動においては、対象学年の変更に伴う、今年度の開催見送りが2校ある。市GX推進課が主催する取り組みとして、今年度より市民向けの体験学習講座を開催する予定との相談を受け、講師として依頼をいただいている。

公益財団法人B&G財団様との関りについては、1期3年の事業期間は2025年度末で一区切りとなったが、今年度においても引き続き、「自然体験活動による郷土教育」に加え、「環境教育活動」においてもご相談をいただき、講師依頼もいただいている。過去2年の成果は大きいと財団本部の皆さんからご好評をいただくことができ、B&G財団として原点に立ち返り、自然体験活動を重要な取り組みとして位置付けていただくことができている。引き続き、協力体制を強化していきたい。

その他にも多くのご相談をいただいているため、さまざまな方々と協働することで、自然体験活動や環境学習活動の役割や大切さを多くの方に広め、多くの地域で・多くの方々に提供されるよう、2026年度もしっかり活動をしていきたい。

○ **つながる広場**：より広く・多くの方が観光感覚で海をはじめとする自然を楽しんでいただき、自然や環境への意識を育むことを目的とした『おまえざき まちのなかの水族館』は、今年度の開催は未定。これまでいただいていた助成金を活用させていただくことが難しく、予算確保が難しい状況である。ただ多くの方から開催を期待されているため、短期間(2日間)開催など実施・運営体制を見直し、再考していく必要がある。予算確保に向け、行協力を賜りたい。

法人施設『セミナーハウス』においては、プログラムの活動場所、講座の会場、法人会員の皆さんの交流スペースなど、法人事業の中心拠点になるよう目指しているが、まだまだ活用しきれていない状況。企画・運営する事業・活動で、もっと活用を図り、正しく活用していきたい。

○ **Camp Program**：マリンキッズ同様、当法人としては大切にしていきたい活動のため、再開を目指し計画・準備を行う。ただ、これまでの活動で明らかになっている「御前崎」という地域の立地的課題解決は難しいため、開催場所も含めしっかり検討を行う必要がある。また、昨年度は天候不良に伴い開催が叶わなかった『Member's Camp』においては、セミナーハウスの活用促進も図り、10月末にセミナーハウスにて開催を計画。会員の方々と交流を図り、賛助会員の増加・獲得につなげたい。

2 事業の実施に関する事項

(1) 非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施予定日時	実施予定場所	従事者の予定人数	受益対象者の範囲及び予定人数	支出見込額(千円)
自然楽校事業	マリンキッズ	5, 7, 8, 9, 11, 12, 1, 3月	久々生海岸 他 御前崎市内	3人	参加希望者 年間合計 延べ48名	490
	アースキッズ 海のもりプログラム	年間12回	久々生海岸 他 御前崎市内	5人	参加希望者 年間合計 延べ 200名	800
	アースキッズ 里のめぐみプログラム	年間6回	法人が管理 する田んぼ 他 福田沢等	5人	参加希望者 年間合計 延べ 50名	300
	オープンプログラム シーカヤック体験等	4月～11月	久々生海岸 他 御前崎市内	2人	参加希望者 年間合計20名	80
未来にのこす 事業	里海プロジェクト	通年 毎月3～4回	久々生海岸	5人	海岸管理者 協力者 約350名	130
	里山まもり隊	通年 毎月1回	福田沢 フィールド 他 御前崎市内	3人	福田沢保全会 協力者 約30名	130
	EC LABO. 指導者研修	毎月1回	御前崎市内	2人	法人会員及び 法人指導者	100
	EC LABO. 自然共生案内人	年1回	セミナーハウス	2人	参加希望者 約10名	100
むすびつな がる事業	協働Program 御前崎クエスト キッズプログラム	通年(5～2月) 月1回 全10回	御前崎市内	3人	市内児童 約 30人	1,080
	協働Program 御前崎クエスト ジュニアプログラム	通年 毎月1回 全12回	御前崎市内	3人	市内児童 約 30人	2,230
	協働Program 御前崎クエスト グローバルプログラム	通年(5～3月) 月1～2回	御前崎市内	2人	市内在住者 約 10名	1,330
	協働Program 御前崎 環境ミライ教室	市内小学校 5校 各校1回	市内小学校 5校	2人	各小学校の対象と なる学年児童	150
	協働Program 海洋体験活動 講師・指導	市内小学校 3校 各校1回	市内小学校、 御前崎市内の海	2人	対象小学校 在校生	150
	協働Program 御前崎 環境体験学習	年間 2回	久々生海岸、 他 御前崎市内	2人	御前崎市民 約 30名	100
	協働Program B&G全国指導者研修	年間2回程度	B&G全国指導 者会の業務に 応じる	1人	B&Gに所属する全 国の指導者	150
	Camp Program Member's Camp	10月31日～ 11月1日	セミナーハウス	2人	法人会員 約 10名	80
	つながる広場 セミナーハウス	通年	当法人施設 セミナーハウス	2人	不特定多数	470
	ホームページやSNSの 管理運営	随時	法人事務所	2人	不特定多数	150

- \* 1 設立（合併）の初年度と翌年度について、それぞれ別葉で作成する。
- 2 初年度分は、申請予定日からおおむね4か月後以降について作成する。
- 3 2事業の実施に関する事項については、事業ごとにそれぞれの項目を記載する。
- 4 2(1)の受益対象者の範囲及び予定人数は、具体的に記載する。
- 5 2(2)は、その他の事業を行わない場合には記載不要。
- 6 定款に掲載している事業で、計画書に掲載しないものについては、その理由を記載する。